

～長久手らしい自治の姿とは～



日頃、様々な分野で市民主体のまちづくりに活躍している市民の皆さんにお集まりいただき、今後、地域と行政がそれぞれの役割に応じてまちづくりを進めていくためには何が必要かについて考えるシンポジウム「地域自治のまちづくりを考えるシンポジウム」を開催しました。

【開催概要】

- 日 時：平成27年3月28日（土）9：30～11：30
- 会 場：福祉の家 2階 集会室 ・参加者：64人
- 講 師：コーディネーター 四日市大学 小林慶太郎先生
- プログラム ・将来の長久手に向けた取組紹介
 - ・基調講演「長久手の地域自治の未来」、講師：四日市大学 小林慶太郎 教授
 - ・参加者同士で「グループトーク」
 - ・小林先生と市長のトークセッション「長久手らしい自治の姿とは？」

はじめに、四日市大学の小林先生に「長久手の地域自治の未来」というテーマで基調講演をお願いしました。

■ 講演では、

- ・ 高齢化の進行や価値観・ライフスタイルの多様化、東日本大震災を受けての防災意識の深化などの変化から、役所まかせではなく地域や個人が社会貢献しようという「新しい公」という考え方が重要になってきた。
- ・ そうした背景を受けて、小学校区等の地域を基本単位とした地域住民が主体になったまちづくりの必要性が高まり、知多市南粕谷コミュニティや三重県伊賀市上野西部地区住民自治協議会など、各地で地域自治のまちづくりが進められている。
- ・ そうした活動の後ろ盾とするためにも、市民や行政が共有できるような地域自治推進のための理念やルールが重要

■ 今後の自治に向けて

- 「多様な人を担い手として巻き込むこと」
 - 「拠点となるハコがなくても工夫次第で活動場所を確保できること」
 - 「正当性の根拠となるルールと資金があると動きやすいこと」
- 以上の3点をご助言頂きました。

基調講演後の「グループトーク」では、参加者同士で4～6人程度のグループを作り、車座になって基調講演の感想や質問などについて意見交換を行いました。主なご意見は、以下のとおりです。

- ・ 自分たちの問題を皆で助け合うことが必要
- ・ 長久手はまだコミュニティが残っている。皆で集まる機会が必要
- ・ 他地区の事例が参考になった。知ることが必要
- ・ 自分で出来ることはやるという補完性の原理
- ・ バックアップ、信頼性。市のオーソライズ、手助けが必要



その後の「長久手らしい自治の姿とは？」というテーマで行ったトークセッションでは、グループトークのご意見・ご質問に小林先生と市長に答えていただきながら、長久手らしい自治の姿や地域自治を支える自治基本条例のルールイメージなどについて議論を深めました。主なご意見は、以下のとおりです。

【参 加 者】 頼る人がいない一人暮らしの高齢者も増えており、市として支援する仕組みも必要である。

【市 長】 助けを必要としている人を全力で守るとともに、役所だけでは限界があるので、地域でお互いに見守る仕組みが求められる。日頃からのつきあいがあると、いざというときの支えあい・助け合いが可能になる。

【小林先生】 子どもを積極的に地域活動に巻き込んでいくことが、さらに保護者や地域の大人の参加を促していくことになる。また、元気な女性の力を活かしていくことも大切な視点である。

【参 加 者】 コミュニティよりもさらに小単位の身近なまちづくりが必要ではないか。自分の住んでいるまちに無関心の住民が、地域の課題を自分の問題として気づき、考えられるようにしたい。

【小林先生】 隣近所の小さい単位の支えあいの積み重ねが大事である。そこでできないことがあれば、校区などのより大きな単位で支えあっていけばよい。

【市 長】 市民の意見を丁寧に聞くとともに、本日のように外部の視点も取り入れて、長久手ならではのまちづくりのルールとして条例を作り、またそれらを市民に伝えていく取組が大事である。

【小林先生】 地域によってまちづくりの仕組みや考え方が違ってよいのではないかと。そうしたことも含めて、自分たちのまちのルールや課題、取組内容は、まちづくり協議会でその方策を考えていけばよい。一方で、それ以外の活動を担保する共通のルールも必要である。



閉会にあたり、市長からは、様々な方法を通じて大勢の市民の意見をお聞きしながら、市民参加型で条例づくりを進めていくことが必要であるとのコメントがありました。また、小林先生からは、女性の力を活かすことや子ども達の関わりも作っていくことで、長久手らしいルールや組織づくりを工夫してほしいとのアドバイスをいただきました。

【参加者のご感想】※参加者アンケート調査から抜粋

- ・ グループトークで質問を考え合うことでコミュニケーションがとれて良かったと思った。
- ・ 自治の概念が少しずつ明らかになってきた。
- ・ いろいろな活動組織が折にふれ、つながりをもって活動されると良い。
- ・ ルールが必要と思うが、納得のできる、押しつけにならない最低限のルールで、それぞれの地域・世代等に合った緩やかなもので良いと思う。
- ・ 「地域の課題は自分たちで」という自治の原点についてや、地域コミュニティの大切さを改めて感じた。
- ・ 公と私の役割と連携の難しさに気が付いた。